

●検討の進め方

資料4-1	滋賀県立高等学校在り方検討委員会 開催スケジュール	・・・	1
資料4-2	滋賀県立高等学校在り方検討にかかる令和7年度における取組 および令和8年度における進め方	・・・	2
資料4-3	本県高等学校教育に関する、県民・大学生・高校生からのご意見（概要）	・・・	4

滋賀県立高等学校在り方検討委員会 開催スケジュール

	開催時期	協議内容等
第1回	令和8年1月23日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ○委員長の選出、職務代理者の指名 ○諮問 ○審議の進め方 ○協議 <p>「これからの滋賀県高等学校教育の在り方について」</p>
第2回	令和8年3月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○論点設定による審議 <p>「高等学校教育の役割について」 「本県の産業教育の在り方について」 「支援・配慮を必要とする、一人ひとりに寄り添った学びの在り方について」</p>
第3回	令和8年5月～6月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○論点設定による審議 <p>(テーマ案)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 魅力ある学校・学科・施設設備について (2) 中高・高大の接続について (3) 県立高等学校の配置・学校規模の在り方について
第4回	令和8年7月～8月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○論点設定による審議 <p>(テーマ案)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 県立高等学校の配置・学校規模について (2) 学科再編、新たな学科設置について (3) 県立通信制高校の在り方について (4) 1学級あたりの定員設定について
第5回	令和8年9月～10月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○論点設定による審議 <p>(テーマ案)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 一人ひとりに寄り添った学びについて (2) 地域と高校の結びつきについて (3) 県産業教育審議会における議論の内容、答申について <ul style="list-style-type: none"> ○答申(素案)
第6回	令和8年11月～12月頃	<ul style="list-style-type: none"> ○答申(案)

**滋賀県立高等学校在り方検討にかかる
令和7年度における取組および令和8年度における進め方**

1 令和7年度における取組

(1) ヒアリング

①高校生	令和8年3月～	4回	64人
②大学生	令和7年12月～	3校	25人
③保護者等	令和8年1月～	2回	15人
④私立高等学校	令和7年10月～	10校	
⑤大学	令和7年10月～	9校	
⑥教育関係団体	令和7年10月～	1回	
⑦不登校相談支援団体	令和7年12月～	1回	
⑧企業	令和8年2月～	1社	
⑨学習塾	令和8年3月～	3社	
⑩県立高等学校管理職	随時実施		

(2) アンケート

①県民対象 「目指したい滋賀の高等学校教育の姿について」

・実施期間：令和7年12月～令和8年3月末

・実施方法：しがネット受付サービス

・回答数：396件（令和8年3月27日現在）

2 令和8年度における進め方

(1) ヒアリング

- ①高校生
- ②大学生
- ③保護者等
- ④私立高等学校
- ⑤大学
- ⑥子育て支援団体
- ⑦不登校相談支援団体
- ⑧その他各種団体（教育関係団体、経済関係団体、福祉関係団体 等）
- ⑨市町、市町教育委員会
- ⑩県立高等学校管理職
- ⑪教員 など

(2) アンケート

①生徒・保護者対象アンケートの実施（対象想定：高校生、中学生、保護者（小学生～高校生））

②県民対象アンケートの実施

- (3) 附属機関「県産業教育審議会」の設置、開催
- (4) 県民フォーラム、地域ワークショップなどの県民との対話の機会の設定
- (5) 滋賀県立高等学校在り方検討委員会からの答申 令和8年12月(予定)
- (6) 県民政策コメントの実施 令和8年12月(予定)
- (7) 県議会(常任委員会)には、検討状況について適宜報告
- (8) 県および県教育委員会としての考え方(新方針)の策定・公表 令和9年3月(予定)

本県高等学校教育に関する、県民・大学生・高校生からのご意見（概要）

（第1回在り方検討委員会開催日（R8.1.23）以降に意見交換を実施したもの）

1 保護者等との意見交換においてお聞かせいただいたご意見

（意見交換実施：令和8年1月～令和8年2月 計2回実施）

1	滋賀の子育ての環境は良いと感じる。子どもには国際的な教育を受けさせたいが、県内はこういった教育が少ないと感じる。留学もさせたい
2	県立の通信制は授業料のメリットはあるが、受検の時期が限られており、9月でも入学できるなどフレキシブルにしていただけるとよい
3	高専を進学先として選んだ動機は、まずは大学受験がないこと。そして高専から大学に編入できること。また、国立高専は授業料が安く、寮に入っても負担は少なかった。それなりの学歴が得られ、専門知識で就職も進学もできるところ（県外国立高専出身の保護者）
4	高専と工業高校との違いは、高専は大学と同じ扱いになる。カリキュラムが異なるため、高専を途中でやめても高校に編入できない（県外国立高専出身の保護者）
5	高校1年生の段階で文理を決めるのは早すぎるように感じる。大学も文系理系の枠を外した学部をつくっている。高校も文理どちらにも行けるクラスをつくってもよいのではないか
6	全県一区制について、自分のころは大津の高校に行きたかったが、区域外からの枠が少なかったので、受検できなかった。今の制度は良いと思っている
7	大津からは虎姫のバカロレアは遠い。国際的な学びの選択肢が少ないので、南部にバカロレア校があったら行く生徒もいるのではないかと。また、堅田あたりにも中高一貫校があれば行く生徒はいるのではないかと
8	子どもの数が減っていく中で、生徒数が減ると部活の選択肢もなくなってしまふ。様々な生徒同士が触れ合うことも大切で、公立も学科を増やしたり、特進のようなクラスを設置したりして生徒が集まるとよい
9	支援の必要な生徒の進学先として高等養護学校もあるが、高校の卒業資格を得るために彦根の私立高校まで通っていた生徒もいる。私立はそのあたりの支援が手厚いようで、こういったことを県立でもしていただくとよい。学力的には問題ないがコミュニケーションが取れずに高校をやめた生徒もいる。こういった生徒も高校の卒業資格を取れるようにしていくことが必要ではないか
10	子どもが減っていく中で、学校の数が減っていくと受け入れてもらえるところがあるかという心配がある
11	得意なことを伸ばしていけるような学科の選択肢が広がるとよい
12	入学してみたけれど学校になじめない、でも勉強はしたいという生徒はいる。そのような子に対しては、自宅で授業を受けられる仕組みがあるとよい

13	いわゆる自宅浪人している生徒が、卒業していても学校で自習することができる高校があってもよい
14	私立高校には予備校と提携しているところもある。県立も学校によってはそういうところがあってもよいのではないか
15	高校は、自らが責任を持つという意味でも、制服でなく私服でもよいのではないか。県外では偏差値の高い学校は私服になっていると聞く
16	県外では制服がない高校も、結果的に制服っぽい服装で登校していると聞く。髪もそうだが、自由になると奇抜になることもあるが、やがて落ち着いてくるのではないか
17	通信制は、勉強したいと思う人にとっては本当にいろいろな講座があり、いろいろなことに取り組める。目標ややる気がある子どもにとっては通信制の選択はありだと思 (広域通信制高校の保護者)
18	県立高校のオープンキャンパスは中学3年生が対象になっている。私立は2年生でも参加できるので、県立も2年生が参加できるようにしてほしい。中2の子どもたちは進路選択に対してあまり実感がない様子
19	今までの私立は「手厚い」というイメージがある。無償化によって人気が出て生徒が集まったら手厚いサポートをしてもらえなくなるのではないかと心配している
20	公立志向であることは変わらないが、受験校のレベルを下げなくなった
21	指定校推薦の枠が多いのは魅力的である
22	県立高校は施設がよくない。部活動の充実度、教員の質を上げる必要がある
23	まずは子どもにわかりやすい魅力を出さないといけない。県立は見えにくい。私立はわかりやすい。なにか1つ、わかりやすいものを見せてほしい
24	子どもたちは、実体験が少ないから、「こういう学びがしたい」という思いを持っていない
25	コース名がカタカナばかりでわかりにくくなっている
26	理系、文系、の選択がわかりにくい。入学してから急いで決めないといけない
27	高校生にキャリアカウンセリングを丁寧にしてあげるべき
28	国の方針や、私立との関係など、様々な課題等はあるかと思うが、やはり県の教育委員会や県立学校はいつまでも「子ども目線の学校、教育委員会」であってほしい
29	学校の魅力化だけでなく、「魅力的な生徒をつくる学校」という視点もあるのではない か
30	高校1年生くらいの段階で、いろいろな進路の選択肢を知ることができると良い
31	今までの詰め込み型(満遍なく知識を広げる)も必要だと思うが、個人の特性を重視した進路選択ができる高校が増えるのが理想。早い段階から専門知識と技術を身につける環境はとても大事。早い段階で建築やものづくりに興味出たら、その特性を伸ばしてあげて、その技術で生活できるのが理想
32	今後の高校の在り方について、「よい大学に入ることを目的としない」高校が増え、地域活動と繋がり、経済と繋がることから自分にできること得意なことを見つけることができる場所となればよい

33	言われたことを確実にこなすだけでなく、「もっとよくするためにはどうしたらよいか」を考え、実際に行動に移す実行力、一人ではできないので複数人で得意を活かして実行する力、対話で解決しようとする力、子どもたちが十分に考え実行してみる力を養っていただきたい
34	単位制の学校がもっと増えたらよいと思う
35	公立学校の意義として、選択肢がたくさんあるとよいと思う。学力で競争させず、やりたいことで、すべての子どもがそれぞれ自分で能力を伸ばしていけるような支援をしていただきたい

2 大学生との意見交換においてお聞かせいただいたご意見

(意見交換実施：令和8年2月 計1回実施)

1	政経の授業は受験科目にない生徒は学ばない。でも、税金の使い道や確定申告の仕組みなど、お金の勉強をもっと高校でしておくべきだった。いわゆる金融教育。大学生になって、一人暮らしやアルバイトを経験して、そう思うようになった
2	高校で、将来のことを考えて、大学の一步手前の段階の学び、もう少し専門的な学びがあると、大学の学びがイメージできるのではないかと思う。大学の学びを見据えた高校教育が必要。また、病院や地域の交流施設などに出向いて、働いている姿を見ることで、大学で学ぶ意義や目標が見えるのではないか。部活動でもマネージメントの難しさや先輩との関わり（人間関係）など、多くのことを学ぶことができ良い経験になった。今後も大切にしていきたい
3	ちょっと困ったり、悩んだりしたときに気軽に立ち寄れる空間が学校にあるといいのではないか
4	中学生は高校のことに関心は持っているが、体験入学やホームページの情報だけではわからないことが多い
5	高校の進路指導については「進学校だから国公立を目指す」などの固定観念を持った指導がまだ残っているように感じる
6	制服はあったほうがいい。高校生のときにしか着られないという特別感がいい。朝が早くて、服を選ぶ時間がない。私服では、人によっては個性が出せるのかもしれないが、家庭事情などで差が出てしまう
7	高校に入学してみて、「何か違う」、高校で勉強してみて「もっとこういうことがしたい」「こういう勉強がしたい」と思うことはあると思うので、その時の転校に対する支援を丁寧にできるといいのではないか。今は転校するときの選択肢が限られていると思う。転校に対して柔軟に考えてあげられるといい
8	登校できない生徒への支援の充実。ICTなどを活用して、家でも授業が受けられる仕組みづくりを設けるといいのではないか
9	自分のペースで学べる環境づくりが大切だと思う
10	不登校支援として、家で授業を受ける、家から課題（宿題）を提出するなど、家でも学べる環境を整えることが大切
11	家は出られるが教室に入れられない生徒がいる。保健室で対応しているケースもあるが、保健室だけでは足りず、別室を用意しているところもある。別室にいる（学校に来ている）と、友だちが迎えに来てくれて、給食のときだけは教室に入れることもある。家ではだれにも会わない。家と教室の間のような居場所が小さなステップアップのためにとっても重要だと思う。教室と別室の併用ができるとよい

12	英語をもっと活用できる学科、国際学科など、海外に挑戦できる学科があったらいい
13	新しい学科というよりも、普通科に進んでも、様々な分野からゲストティーチャーに来ていただいて、その生き方などを学ぶことで多様な学びにつながるようにできればいい
14	例えば、工業系であれば、週に1度企業や工場に学びに行くなど、特別な学びができるといい
15	いろいろな分野を学ぶ生徒が交流できる仕組みが必要。複数のコースを作って学ぶが、各コースで異なる学びをすることで、交流したときに生徒それぞれの知識や考えを広げることができるとおもしろいと思う
16	1つの学校にいろいろな学科やコースがあるといい。学科やコースが複数あることで、いろいろな生徒が通いやすくなるのではないか、生徒それぞれが自分のしたい勉強ができるのではないかと思う
17	中学校のときの職業体験で働く意義とかそこで考えさせられた。高校生でも職場体験を行って、働くことがどういうことか、お金の大切さや売上処理の重要性などについて実体験として学べる必要があるのではないか。高校生のときからそういう職場体験を通じて金融教育にも繋がっていったらいいと思う。
18	学校に自習スペースがあると良い。一人時間が作れる場所があるといい。家庭環境によっては自分の部屋がない、自宅では勉強ができない生徒がいるので

3 高校生（県立中学生含む）との意見交換においてお聞かせいただいたご意見

（意見交換実施：令和8年3月 計4回実施）

1	生徒が学びたいことや進学や将来を見据えた学習ができるような高校を作って欲しい
2	教材の選択や授業の選択ができるような、生徒が主体的に学べる学び
3	生徒の個々の能力に合わせて、それを伸ばすような授業がもっと増えたらいい
4	授業のスピードを上げて、大学入試に対応できる教育
5	カリキュラムについて、選択する科目が狭い。地学を選択したい理系コースの生徒がいる。理数科の生徒で文系に移りたい生徒がいるのにそれはできないことになっている。理数科の生徒で全科目まんべんなく得意な生徒がいて、文系に進むこともあってもいいのではないか。
6	進路学習とか座学だけじゃなくて、職場体験とかを設けて、実際仕事でどんなことをするのかを体験できたらいい
7	高校で職場体験がしたい。理由としては、やっぱり実際に体験してみないと仕事をするのはどんな感じなのかとか実際どういった仕事をするのかなどの実感がわからないし、わからないから
8	高校を選んだ理由は家から近いから
9	将来が決められていないから、なんとなく（とりあえず）普通科を選んだ
10	まずは普通科の高校に入って選択肢を広く持っておきたい。大学を選ぶときに将来を考えて学部を選びたい
11	普通科で、勉強もしながら、資格のための勉強や特徴的な学びができるといい
12	法律や税金のシステムについての学習
13	お金の知識（金融教育）など、将来に必要なことを学びたい
14	校内どこでも電波がしっかり届く学校
15	ネットワークが弱いので、Wi-Fiを強化してほしい。ICT機器を使った授業をもっと快適に受けられるように、設備を整えて欲しい
16	体育館にエアコンを設置してほしい。行事やイベントを企画しても体育館の暑さの関係で認めてもらえないこともある
17	体育館にエアコンがないこときつい。熱い中での体育の授業や集会、学園祭がひどかった。中学にはあったので早く何とかしてほしい
18	バリアフリーが不十分。段差だらけ。
19	防犯カメラがあったほうがいい
20	防犯カメラはないほうがいい
21	生徒の意向で校則を変えられるようにしてほしい。話し合いの場を設けたりしてほしい
22	校則を変えてほしい。スマートフォン使用禁止、頭髪、制服など、固定観念にとらわれたルールのように思う

23	制服があると楽。ただし、中に着るセーター、カーディガン、外套をもっと自由にしてほしい
24	校則で、自由すぎるのはどうかと思う
25	働くことには興味があるから、アルバイトを経験してみたい
26	高校から医療のことを学べる学科があればいい
27	大学レベルの研究や授業を先取れる学校があるといい
28	学食があったらいい。私立にはある
29	中2の時は高校のことを全然わからなかった。高校からもっと説明してもらえる機会があるといい
30	中学時に不登校で、全日制単位制の学校に行きたくて探した。県内には、通信制の高校が少ない
31	体調等によっては毎日学校に行かなくてもよい、そのような単位制とか通信制の学校が増えてほしい